

Negation Particles of Gyarong Language

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長野, 泰彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003998

ギャロン語の否定辞

長野 泰彦*

Negation Particles of Gyarong Language

Yasuhiko Nagano

ギャロン語は中国四川省西北部に話されるチベット・ビルマ系の言語である。1930年代以降記述研究が発表され始め、ようやく近年その文法構造の概要が明らかになってきた。

著者は1984年以降この言語の文法記述に努めてきたが、最近従前のモノグラフには記述されていない否定辞の形式を発見した。小稿ではその否定辞の生起の仕方を記述的に整理分析し、合わせて歴史的來源に関する見通しを述べる。

Gyarong (rgyal rong in Written Tibetan) is a Tibeto-Burman language spoken in the northwestern part of Sichuan Province, China. This language has long attracted the attention of scholars, because of the striking similarity of some of its lexical items to those of WT as well as its complicated system of affixation, which could be regarded as reflexes of Proto-TB morphology.

The author has written two monographs on the language, and this small paper is intended to supplement their discussion of the negation system. The negation particles pointed out in this paper have not been described in any previous works on Gyarong.

*国立民族学博物館研究戦略センター

Key Words : Gyarong, Tibeto-Burman, negation particle

キーワード : ギャロン, チベット・ビルマ, 否定辞

0 はじめに	2.5 希求法における否定
1 従前のモノグラフにおける否定辞	2.6 禁止
2 新しい否定辞のシステム	2.7 ja- と ji- の出現分布
2.1 自動詞構文における否定辞	3 まとめと問題点
2.2 他動詞構文における否定辞	3.1 他方言における否定辞
2.3 形容詞の否定	3.2 来源
2.4 助動詞の否定	

0 はじめに

ギャロン（嘉戎）語は中国四川省西北部に話されるチベット・ビルマ（TB）系の言語で、その一部の語彙形式がチベット文語（WT）に酷似していることや、複雑な接辞構造を示すことから、TB 祖語の形態統辞論を反映するものとして注目を集めてきた。1930 年代以降断続的に記述研究が発表されてきたが、現地調査が困難であったため、文法構造の概要が明らかになったのはごく近年のことである。

著者は 1984 年以降この言語の文法記述に努めてきたが、最近従前のモノグラフには記述されていない否定辞の形式を発見した。これは今迄の著者自身のインフォーマントの発話にも観察されないものである。この形式の来源は未だ明らかでないが、その否定辞の生起の仕方をここに整理しておきたい。

ギャロン語の分布、方言、音論の概略については、Nagano (2003) を参照されたい。本稿で用いる音韻表記については注 1 に示す。また、本稿は、既に長野 (2003b) として発表した資料とアウトラインに、種々のコメント及び著者自身の現地調査 (2004 年 8 月) によって得られた資料を踏まえて改訂を施したものである。

1 従前のモノグラフにおける否定辞

従前のモノグラフ (Wolfenden 1936, 金鵬 1949, 金鵬 1957/8, 瞿 1984, 林 1993) では、否定は一貫して助辞 *ma-* により示される。例えば、ギャロン語チョクツェー (卓克基) 方言の包括的文法を著した林 (1993) は「ギャロン語においては否定の副詞が主として動詞または形容詞を修飾し、否定または禁止を表す」と述べている。林が記

述する副詞とは *ma* (*mv*) 及び *mə* で、前者が「…しない意志」を示すのに対し、後者は「まだ…し終わっていない」ことと禁止を表す。

- (1) a. *ŋa ma ki-ŋ.* 私を買わない。
 b. *mə me zə-u.* 彼は食べない。
 c. *no me tə-pə-u.* あなたは(それを)しない。
 d. *ta-pu me mfor.* その子はかわいくない。(林 1993: 312-313)
- (2) a. *ŋa mə pəŋ.* 私はそれをし終わっていない。
 b. *wəjo mə za-u.* 彼はまだ食べていない。
 c. *ŋa mə to-m.* 私は彼を殴ってはいない。
 d. *ŋa mə mfor.* 私は美しくなかった。(林 1993: 313)
- (3) a. *no mə tə-zə-u.* 食べるな。
 b. *no mə tə-let.* 打つな。(林 1993: 313)

1985年に65歳で亡くなった、長野(1984)までのインフォーマントは同じチョクツェー方言の話し手で、上記と矛盾しないシステムをもっていた。Nagano (2003)に書いた通り、「否定は常に *ma-* によって表され、VPfinal, VPnon-final または助動詞の直前に置かれる」のである。ところが、最近になってより若い世代では *ma-* 以外に、*ja-* と *ji-* という異なる否定辞が併存することが明らかになった。

2 新しい否定辞のシステム

ma-, *ja-* 及び *ji-* はどのように生起し、どのような分布を示すのか? 本稿の目的はその生起の仕方を整理し、ある程度までの分布の条件の見通しを示すことにある。一般的傾向として、*ja-* と *ji-* は完了²⁾ とともに現れ、*ma-* は未完了と共起する。また、禁止は常に *ji-* によって示される。

2.1 自動詞構文における否定辞

次の例が *ja-/ji-* と *ma-* の典型的なコントラストを示すように思われる。(以下の例文では、ギャロン語の音韻表記、各形態単位のインタリニアの語釈、邦訳の順に示す。但し、紙数の関係上、インタリニアの語釈は英語と略語により示す。)

- (4) a. wugyo tsay ta-ki-w ren, məza tshongkang **ja**-che.
 he vegetable PFT-buy-3ptt. because, she store not-go
 彼が野菜を買ったので、彼女は店に行かなかった。
- b. wugyo tsay ta-ki-w ren, məza tshongkang **ma**-che.
 he vegetable PFT-buy-3ptt. because, she store not-go
 彼が野菜を買ったので、彼女は店に行かない。

(4a) では *ja-* が、(4b) では *ma-* が現れ、完了・未完了の区別を示している。(4a) は「彼女は店へ行かなくてよいとの判断をした」という含意である。**ja-che** を **ji-che** とすることは文法的に可能であるが、その場合は「彼が野菜を買ったことが彼女をして強制的に店に行かしめない」特殊な環境なり条件があるときに限られる。

- (5) a. wugyo wa-rgyap nə-sar wu-ŋkuy, magyu magyu che sa-mu-y **ja**-che.
 he marriage PFT-get of-since, often wine place-drink-LOC not-go
 彼は結婚してからというもの、しばしば酒場へ行くことはなかった。
- b. wugyo wa-rgyap nə-sar wu-ŋkuy, che sa-mu-y **ja**-ta-che.
 he marriage PFT-get of-since, wine place-drink-LOC not-PFT-go
 彼は結婚して以来、決して酒場へ行かなかった(飲酒という習慣を止めた。)
- c. wugyo wa-rgyap nə-sar wu-ŋkuy, che sa-mu-y **ma**-nə-che.
 he marriage PFT-get of-since, wine place-drink-LOC not-PROG-go
 彼は結婚して以来、酒場へ行っていない。(習慣として)

ja-/ji-/ma- の区別という点では (4) のグループと大差はない。(5a) は「足繁く酒場へ行くことは控えた」ことを示し、(5b) は「酒場へ行く習慣そのものを放擲した」のである。(5b) **ja-ta-che** の *-ta-* は方向接辞で、本来「上へ」を表す。英語の *to finish up* や *to eat up* のように「…し終える、…し切る」ことを示す *up* に平行する表現で、この場合「酒場へ行くのをピシッと止めた」の意かと思われる。3例とも彼の意志に基づく行為であるから、*ji-* は現れない。

- (6) wugyo kuru zinka-y jikthar(<**ja**-yi-kə-thar)-je thakchot nə-ngo.
 he Tibet area-LOC not-general movement-1sg.-go-NOM certain down-AUX
 彼がチベットに行かなかったことは確かだ。

この例文では表層形式として *ji-* が出現しているように見えるが、この基底形は *ji-*

kə-thar ではなく, *ja-yi-kə-thar* と考えるべきである。なぜならば, 動詞 *thar* は通常一般的な移動を表す方向接辞 *yi-* を要求するからである。*-kə-* は 1sg. 人称接辞であるが, オプションである。

- (7) a. *wugyo wu-mnyak ja-gyu wuches, tə-mnyo no-pa-w.*
 he his-eyes not-sleep since, show PFT-watch-3ptt.
 彼は眠れなかったので, そのショーをみた。
- b. *wugyo wu-mnyak ma-gyu wuches, tə-mnyo pa-w.*
 he his-eyes not-sleep since, show Ø-watch-3ptt.
 彼は眠れなかったので, そのショーをみるだろう。

(7a, b) ともに見かけ上他動詞構文のように見える。(tə-)mnyak *gyu* 「眠る」は「眼-閉じる」という語構成だからである。しかし, (tə-)mnyak *gyu* の振る舞いはあくまでも自動詞であり, 「眼を閉じる」という他動詞としての意味を表現する時は *gyu* の前に他動詞化マーカー (CAUS) をおかなければならない。

- (8) *wugyo-yo tə-mnya-ma wastot jupa(<ja-wu-pa) nəma. pewa tə-mu kəmca ji-lat.*
 they cultivation well not-3pl.>3 AUX(NEG). this year rain many not-fall
 彼らがよく農作業をしなかったのではない。
 今年は雨がたくさん降らなかったのだ。

(8) は自然現象の否定には *ji-* が現れる例である。

2.2 他動詞構文における否定辞

基本的には *ja-/ji-/ma-* の区別は自動詞構文と同様である。その例として下記の3グループを挙げる。

- (9) a. *wugyo tama ku-pa ci, chitre ja-let.*
 he work PFT-do when, car not-drive
 仕事をしている時, 彼は車を運転しなかった。
- b. *wugyo tama pa-w ci, chitre ma-let.*
 he work do-3ptt. when, car not-drive
 仕事をする時, 彼は車を運転しない。
- c. *wugyo tama pa-w ci, chitre ma-nə-let.*

he work do-3ptt. when, car not-PROG-drive

仕事をする時, (通常または習慣として) 彼は車を運転しない。

- (10) a. wugyo tama **ja**-pa-w reN, wu-ngra munədet (<**ma**-wu-nə-det).
 he work not-do-3ptt. because, salary not-3pl.>3-PROG-pay
 彼は働かなかったので, (彼らは) 彼に給料を支払っていない。
- b. wugyo tama **ja**-pa-w reN, wu-ngra mudet (<**ma**-wu-det).
 he work not-do-3ptt. because, salary not-3pl.>3-pay
 彼は働かなかったので, (彼らは) 彼に給料を支払わないだろう。
- c. wugyo tama **ja**-pa-w reN, wu-ngra judet (<**ja**-wu-det).
 he work not-do-3ptt. because, salary not-3pl.>3-pay
 彼は働かなかったので, (彼らは) 彼に給料を支払わなかった。
- d. wugyo tama **ma**-pa-w reN, wu-ngra mudet (<**ma**-wu-det).
 he work not-do-3ptt. because, salary not-3pl.>3-pay
 彼は働かないので, (彼らは) 彼に給料を支払わないだろう。
- (11) a. wugyo-yo stə wu-gyim nu(<no-wu)-npar ju(<**ja**-wu)-npar nutho (<nə-wu-tho).
 3-pl. this of-house PFT-3-sell not-3-sell PROG-3-ask
 この家を買ったのかどうか訊ねている。
- b. wugyo-yo stə wu-gyim ka-npar **ma**-npar nutho (<nə-wu-tho).
 3-pl. this of-house INF-sell not-sell PROG-3-ask
 この家を買うのかどうか訊ねている。
- c. wugyo-yo stə wu-gyim nu(<no-wu)-npar ju(<**ja**-wu)-npar tutho (<ta-wu-tho).
 3-pl. this of-house PFT-3-sell not-3-sell PFT-3-ask
 この家を買ったのかどうか訊ねた。

これらの例における *ja/ma-* の分布は単純であって, インフォーマントはこれらのいずれにも *ji-* の出現を認めなかった。しかしながら, 動詞によっては下記のようなバリエーションがありうる。

- (12) a. wugyo gyaga-y na-we nongoy, nga **ja**-mto-ng.
 he India-LOC high to low-come though, I not-see-1sg.
 既に彼はインドから着いているのに, 私はまだ彼に会っていない。

- b. wugyo gyaga-y na-we nongoy, nga **ma-wa-rdo-ng**.
he India-LOC high to low-come though, I not-CAUS-see-1sg.
既に彼はインドから着いているとしても、私は彼に会うつもりはない。

インフォーマントによれば、(12b) で **ma-wa-rdo-ng** ではなく、**ma-mto-ng** にすることは理論的には可能だが、意図的に「会う」ことを示すのに **mto** は不適切である。また、(12a) における *ja-* に替えて、*ji-* を置くことは可能である。例えば、

- (12) c. wugyo wu-gyim guy mak-nyi **ji-mto-ng**.
he of-house in AUX(NEG) of existence-NOM not-see-1sg.
私は彼が家にいないのを見たことがない。
- d. shtə wu-rmi kəce nongoy, **ji-mto-ng**.
this of-man where though, not-see-1sg.
私はこの男をどこでも見たことがない。
- e. məza thə ke-tsi **ja-mto-w**.
she what also not-see-3ptt.
彼女は何も見なかった。

(12a) (12e) と (12b) (12c) を対比して見ると、*ja-* と *ji-* の分布のありようには volitionality (意志性) が関係していると疑われる。では、より判断性・感覚性の高い動詞ではどのようになるのだろうか？

- (13) a. wugyo su wu-gyim-guy no-nyis jikshing(<**ji-kə-mshi-ng**>³).
he who of-house-in PFT-stay not-1sg.-know-1sg.
彼が誰の家に泊まったのか私は知らなかった。
- b. wugyo su wu-gyim-guy kə-nyis-tə makshing(<**ma-kə-mshi-ng**>).
he who of-house-in IMP-stay-NOM not-1sg.-know-1sg.
彼が誰の家に泊まるのか私は知らない。
- c. …wu-tong mə-nə-mshi-w?
its-meaning INTERR-PFT-know-3ptt.
その意味が分かりましたか？
…jikshing(<**ji-kə-mshi-ng**>).
not-1sg.-know-1sg.
分かりませんでした。

- d. wugyo kupa wu-skat **ma**-mshi-w-tə nga jikshing(<**ji**-kə-mshi-ng).

he China of-language not-know-3ptt.-NOM I not-1sg.-know-1sg.

彼が中国語を知らないことを私は知らなかった。

mshi「知る」という動詞は完了では基本的に *ji-* を要求する。この動詞は他動詞ではあるが、代名詞化ボタンから判断すると、(13c) のみ他動詞構文で、他は自動詞パターンである。ches「言う」という動詞もまた完了において *ji-* をとる動詞である。例えば、

- (14) a. wugyo-yo kupa zinka-y kə-che-ny kə-ngos kə-ma **ji**-ches.

they China country-LOC INF-go-3pl. AUX AUX(NEG) not-say

彼らは中国へ行くのか否かを言わなかった。

- b. wugyo-yo kupa zinka-y kə-che-ny kə-ngos kə-ma **ma**-ches.

they China country-LOC INF-go-3pl. AUX AUX(NEG) not-say

彼らは中国へ行くのか否かを言わないだろう。

- (15) a. stə thə kə-ngos kə-ma **ji**-ches.

this what AUX AUX(NEG) not-tell

これは何であるのかを彼らは言わなかった。

- b. stə thə kə-ngos kə-ma **ma**-nə-ches.

this what AUX AUX(NEG) not-PROG-tell

これは何であるのかを彼らは言わないだろう。

次の3グループの例文は *ja-/ji-/ma-* の対比をよく示していると思われる。

- (16) a. wugyo skyi ma-we-tə **ji**-suso-ng.

he here not-come-NOM not-remember-1sg.

私は彼がここに来ないことを覚えていなかった。

- b. wugyo skyi ma-we-tə **ma**-nə-suso-ng.

he here not-come-NOM not-PROG-remember-1sg.

私は彼がここに来ないことを覚えていない。

- (17) a. wugyo-yo kwor mupay(<ma-wu-pa-y) **ji**-suso-ng.

they help not-3pl.>1pl.-do-3pl.>1pl. not-remember-1sg.

私は彼ら我々を助けてくれないとは思わなかった。

- b. wugyo-yo kwor mupay(<ma-wu-pa-y) **ma-nə-suso-ng**.
 they help not-3pl.>1pl.-do-3pl.>1pl. not-PROG-remember-1sg.
 私は彼らが我々を助けてくれないとは思わない。
- (18) a. shtə wa-ma kə-ra kuma-tə **ja-suso-w**.
 this of-work INF-needed AUX(NEG)-NOM not-regard-3ptt.
 彼はこの仕事が重要でないとはみなさなかった。
- b. shtə wa-ma kə-ra kuma-tə **ma-nə-suso-w**.
 this of-work INF-needed AUX(NEG)-NOM not-PROG-regard-3ptt.
 彼はこの仕事が重要でないとはみなしていない。
- c. wugyo wa-rgyap kə-sar **ji-suso** nongoy, wu-pa-ma jis wu-su-sar nəngo.
 he his-marriage INF-marry not-think though, his-parents two 3pl.>3sg.-CAUS-
 marry AUX
 彼が結婚を考えなかったとしても、両親が結婚させるだろう。
- d. wugyo wa-rgyap kə-sar **ja-suso** nongoy, wu-pa-ma jis wu-su-sar nəngo.
 he his-marriage INF-marry not-think though, his-parents two 3pl.>3sg.CAUS-
 marry AUX
 彼が結婚を望まなかったとしても、両親が結婚させるだろう。
- e. wugyo wa-rgyap kə-sar **ma-suso** nongoy, wu-pa-ma jis wu-su-sar nəngo.
 he his-marriage INF-marry not-want though, his-parents two 3pl.>3sg.-CAUS-
 marry AUX
 彼が結婚を望まないとしても、両親が結婚させるだろう。

同一の語幹 *suso-* に対し、*ji-* と *ja-* いずれもが生起している。*suso-* は意志性に関していくつかのグレードを含む動詞であり、「記憶している」>「考える」>「見なす」>「夢見る」>「望む」をカバーする。上の例から判断すると、意志性の低い「記憶している」に近ければ *ji-* が、「望む」に意味的に近ければ *ja-* が現れる傾向がある。(18c) (18d) を比較すると、この対比が明確になる。また、代名詞化にかかる接辞のパターンは、(18) の 5 文のみ他動詞型で、(16) (17) は自動詞型である。

2.3 形容詞の否定

- (19) a. **tham zhimpa-yo nyi-loto ja-sna**.
 nowadays farmer-pl. of-production not-good

このところ農民の生産はよくなかった。

- b. *tham zhimpa-yo nyi-loto ma-nə-sna.*
 nowadays farmer-pl. of-production not-PROG-good
 このところ農民の生産はよくない。

- (20) a. *yinyi tama ji-kə-skoy(<skos-y)-tə zhung-gə yitrhul nə-pu-w.*
 we work not-diligent-1pl.-NOM government-ERG punishment PFT-charge-3ptt.
 政府は我々の仕事が勤勉でないことに罰を与えた。
 b. *yinyi tama ma-kə-skoy(<skos-y)-tə zhung-gə yitrhul pu-w.*
 we work not-diligent-1pl.-NOM government-ERG punishment Ø-charge-3ptt.
 政府は我々の仕事が勤勉でないことに罰を与えるであろう。

今のところ、形容詞と *ja-* および *ji-* との共起関係に関して明確な分析はしがたい。

2.4 助動詞の否定

前項と同様、助動詞と *ja-* および *ji-* との共起関係について、はっきりした分布を示しがたい。ただ、主動詞の意味、他動詞性、ないし意志性と連関していることは窺われる。以下にその用例を挙げておく。

2.4.1 助動詞 *ra* 「…必要がある」についての例は下記の通りである。

- (21) a. *domor təmu kumca na-lat wuches, təmnya-y teji ka-lat ja-ra.*
 last year rain much PFT-fall because, fields-LOC water INF-do not-need
 昨年雨がよく降ったので、彼らは畑を灌漑する必要がなかった。
 b. *domor təmu kumca na-lat wuches, təmnya-y teji ka-lat ma-ra.*
 last year rain much PFT-fall because, fields-LOC water INF-do not-need
 昨年雨がよく降ったので、彼らは畑を灌漑する必要がないだろう。
 c. *domor təmu kumca na-lat wuches, təmnya-y teji ka-lat ma-nə-ra.*
 last year rain much PFT-fall because, fields-LOC water INF-do not-PROG-need
 昨年雨がよく降ったので、彼らは畑を灌漑する必要がない(状態にある)。
 (22) *zhung nyi-nbey trhə kumca ka-det ji-ra nongo-y, wu-zinkam yargyes kə-kte ta-che.*
 government of-towards tax many INF-give not-need AUX-though, its-country
 development big PFT-go
 政府に重税を払う必要がなかったけれども、国は大発展した。

- (23) wugyo-yo nyi-shamdu **ji-ra**⁴⁾ nongo-y, tuki (<ta-wu-ki).
they-pl. their-gun not-need AUX-though, PFT-3pl.>3-buy
彼等は銃を買う必要がないのに、買った。

(21a) では *ja-* が, (22) では *ji-* が現れる。強いて言えば, 「灌漑する」の方が「税を払う」よりもより意志性が高いことと関連があるかもしれない。(23) は主動詞を欠く構造で, この場合は *ji-* の出現率が高い。

2.4.2 助動詞 *cha* 「…することができる」も *ja-* および *ji-* いずれとも共起しうる。下記の例から見ると, 主動詞が他動詞であれば *ja-*, 自動詞であれば *ji-*, という分布がひとつの解釈として考えられる。

- (24) a. kuntren loto ka-sə-sna **ja**-cha.
commune production INF-CAUS-good not-able
その集団は生産を上げる (よくする) ことができなかった。
b. kuntren loto ka-sə-sna **ma**-cha.
commune production INF-CAUS-good not-able
その集団は生産を上げる (よくする) できないだろう。
c. kuntren loto ka-sə-sna **ma-nə**-cha.
commune production INF-CAUS-good not-PROG-able
その集団は生産を上げる (よくする) できないでいる。
- (25) nga loptrey (<loptra-y) ka-che **ji**-cha-ng.
I school-LOC INF-go not-able-1sg.
私は学校へ行くことができなかった。

2.4.3 助動詞 *tso* 「…する時間がある」は *ji-* のみを接頭しうる。例えば,

- (26) nga loptrey (<loptra-y) ka-che **ji**-tso-ng.
I school-LOC INF-go not-have time to-1sg.
私は学校へ行く暇がなかった。

2.4.4 助動詞 *yo* 「…してよい」は1例しかない⁵⁾。

- (27) …nga tə-gyim wu-nkuy ka-ngo mə-yo?
 I house of-in INF-enter INTERR-allowed
 入ってもいいですか?
 …ka-we **ma-yo**.
 INF-enter not-allowed
 だめです。

助動詞 *lo* 「まさに…しようとする」は *ja-* と *ma-* を接頭する例しかない。

- (28) a. wugyo jis gyimguy(<gyim-nguy) kə-cwat **ja-lo**.
 he two house-towards INF-return not-be about to
 彼ら2人は帰宅しようとしていたのではない。
 b. wugyo jis gyimguy(<gyim-nguy) kə-cwat **ma-lo**.
 he two house-towards INF-return not-be about to
 彼ら2人は帰宅しようとしているのではない。

2.4.5 助動詞 *myo* 「…したことがある」には *ja-/ji-/ma-* いずれも接頭しうるが、一般的な発話では *ma-* が圧倒的に多い。

- (29) nga gyaga-y ka-che nə-myo-ng nongo-y, nəci kumca ka-nyi **ma-myo-ng**.
 I India-LOC INF-go PFT-have experience-1sg. AUX-though, there long INF-stay
 not-have experience-1sg.
 私はインドへ行ったことがあるが、長く滞在したことはない。
 (30) wugyo kuru zinka-y ka-che **ma-myo-w**.
 he Tibet area-LOC INF-go not-have experince-3sg.
 彼はチベットへ行ったことがない。

(29) (30) に対し、

- (31) nga gyaga-y ka-che nə-myo-ng nongo-y, nəci kumca ka-nyi **ji-myo-ng**.
 (32) wugyo kuru zinka-y ka-che **ja-myo-w**.

の2文は文法的であるが、「過去のある時点以前に…したことはなかった」の意になる。また、*ji-* と *ja-* は1人称・3人称の違いであるとインフォーマントは説明している。

2.5 希求法における否定

否定の希求「…でなければいいのに」「…しないように」は 'a-ji- 語根で表される。'a- はおそらく方向接辞に接頭して名詞化する 'a- と同じ形態と思われる。例えば, 'a-ta 「上方」 vs. ta- 「上へ」, 'a-na 「下方」 vs. na- 「下へ」。

- (33) a. wugyo mə-nə-go zə, tama 'a-ji-pa-w.
he uncontrollable act-PROG-sick if, work NOM-not-do-3ptt.
彼は病気なら、働かない方がいいのに。
- b. wugyo mə-nə-go zə, tama ji-sə-pa-w.
he uncontrollable act-PROG-sick if, work not(PROH)-CAUS-do-3ptt.
彼は病気なら、働かせるな。
- (34) wugyo lhasa-y 'a-ji-che.
he Lhasa-LOC NOM-not-go
彼がラサに行かないように。
- (35) təmo 'a-ji-lat.
rain NOM-not-fall
雨が降らないように。

2.6 禁止

禁止は常に ji- によって接頭される。ma- が出現することはない。

- (36) a. shci ro-we-n.
here direction towards speaker-come-2sg.
ここへ来い。
- b. shci ji-we-n.
here not-come-2sg.
ここへ来るな。
- c. shci ji-nbyi-n.
here not-come(HON)-2sg.
ここへいらっしゃらないでください。

- (37) ka-pshi **ji**-pa-w.
 INF-sing not-do-3ptt.
 歌うな。

2.7 ja- と ji- の出現分布

(4a) から (32) までの例から、動詞の意志性が *ja-* と *ji-* の出現分布を決定する要因であることが分かる。下記の例文がその明確な証左である。

- (38) a. wugyo ka-we makcha(<**ma**-kə-cha) mak. **ma**-we nongos.
 he INF-come not-3sg.-can AUX(NEG). not-come AUX
 彼は来られないのではない。彼は来ないのだ。
- b. wugyo ka-we jikcha(<**ji**-kə-cha) nəma. **ja**-we nongos.
 he INF-come not-3sg.-can AUX(NEG). not-come AUX
 彼は来られなかったのではない。彼は来なかったのだ。
- c. wugyo **ji**-we nəma. **ja**-we nongos.
 he not-come AUX(NEG). not-come AUX
 彼は(単純に)来なかったのではない。彼は(意図的に)来なかったのだ。

以下の2例も同様の対比を示す。

- (39) a. wugyo khri zə kəma **ji**-ndza-w.
 he rice other than anything not-eat-3ptt.
 彼は米飯以外食べられなかった。
- b. wugyo khri zə kəma **ja**-ndza-w.
 he rice other than anything not-eat-3ptt.
 彼は米飯以外食べなかった。

(39b) は彼の意志または好き嫌いによって食べなかったのであるのに対し、(39a) は何らかの理由または環境のゆえに食べられなかったのである。

3 まとめと問題点

以上の論点をまとめれば、次のようになる。

- (1) ギャロン語チョクツェー方言には *ja-/ji-/ma-*3種の否定辞がある。

- (2) *ma-* は未完了の否定, *ja-/ji-* は完了の否定に用いられる。林 (1993) の言う *mə-* が *ja-* と *ji-* に相当する。
- (3) *ja-* と *ji-* の出現分布は主動詞の volitionality (意志性) と関連があり, その度合いが強いほど, *ja-* の出現率が高い。
- (4) 禁止には常に *ji-* が用いられる。
- (5) 否定の希求には常に, *'a-ji-* が用いられる。

3.1 他方言における否定辞

従前のモノグラフには *ja-/ji-* に関する記述はない。しかし, 現在現地調査に従事する研究者の中にこれを観察しているものがないではない。Marielle Prins 氏 (西南民族大学講師) はキョムキョ (脚木足) 方言を長年調査しているが, 同氏のご教示によれば, 同方言には *nga masyiong* 'I don't know' vs. *nga djasyiong* 'I didn't know' のような対立がある。*ja-/ji-* のような母音の対立については mood (法) との関係を調べる必要がある, との見解を示しておられる。また, 鈴木裕之氏 (京都大学大学院) の調査によると, *ja-/ji-* はチョクツェー方言においても年代の差にかかわらず広く用いられている。

3.2 来源

では, この *ja-/ji-* はどこから来たのか? 幾つかの説明の仕方はあるが, どれも充分納得のゆくものではない。共時的, 通時的, 他言語との比較の各レベルで, 次のような説明の仕方がありうる。

従前のモノグラフには *ja-/ji-* に関する記述はない。にもかかわらず, インフォーマントの両親の年代 (50 から 60 歳程度) ではこの接辞を頻繁に使用するよう急速に変化したことから推測すると, (1) 規範的な同方言においては否定辞はあくまでも *ma-* であったが, 口語形式としては *ja-/ji-* が存在していた, (2) 否定辞 *ma-* は疑問詞 *mə-* と紛らわしいため, 別の音形式を採用した, あるいは, (3) 林の記述では *ma-* が未完了の否定, *mə-* が完了の否定を表すが, この区別の混乱を避けるために *ja-/ji-* を採用した, という共時的説明は可能である。しかし, その来源については不明のままである。

TB 祖語における否定辞には *mV- と *tV- の 2 系統がある。多くの TB 言語ではいずれかの反映形式がドミナントで, 他方が残滓形式として保存されている。ギャロン語にもそれがあって, *tV- が口蓋化されて *ja-* という形で具現したと仮設することは

可能である。しかし、なぜ *ja-* が完了の否定に用いられるようになったかについては分からない。

羌語などの隣接する言語にも *ja-/ji-* が否定辞として出現する例はないが、ガロ語では *ja-* が否定辞として機能する。西田龍雄博士のご教示によって調べたところ、Burling (1961: 18) にその記述があり、*-ja-* または *-gi-ja-* が動詞句内に接中または接尾して否定を表す。さらに、*ku-ja-* が「未だ…していない」あるいは単純に過去の否定を表す。特に後者の例はこの否定辞の来源を考える上で重要であり、今後精査を期したい。また、バーリング教授のご教示(2004年9月)によれば、ガロ語だけでなく、その周辺のTB諸語(例えばミキル語など)にも同じ形式が認められるという。この点についても調査する必要がある。

[略号表]

1	1人称
2	2人称
3	3人称
AUX	助動詞
CAUS	他動詞化
ERG	能格
HON	敬語法
IMP	未完了
INF	不定法
INTERR	疑問詞
LOC	於格
N	名詞
NEG	否定
NOM	名詞化標識
NP	名詞句
PFT	完了
pl.	複数
PROG	進行態
PROH	禁止

ptt.	被動作者
sg.	単数
VP	動詞句
WT	文語チベット語

注

- 1) 本稿で記述するギャロン語の音韻表記は以下のとおりである。
子音要素 : p, ph, b; py, phy, by; t, th, d; tr, trh, dr; ky, khy, gy; ' ; ts, tsh, dz; c, ch, j; s, z; sh, zh; h, fi; m, n, ny, ng; l, hl, r; w, y, N
留意すべき音価は下記のとおりである。
Tr- → そり舌音
Ky- → 口蓋化した K-[cç-, cç'-, jç-] が異音として現れることがある。
' → 口蓋閉鎖音
fi → 有声の h
ny → 口蓋鼻音
ng → 軟口蓋鼻音
hl → 無声の l
N → 鼻音化要素

母音要素は /a, i, u, e, o, ə/ である。声調は弁別的でない。

- 2) 完了 / 未完了の区別とすべきか, past/non-past とすべきかについては考慮の余地がある。
- 3) jishing (<ji-Ø-mshi-ng) の方が自然というインフォーマントも多い。
- 4) ja-ra も可。この場合, 「必要がある」というよりも「買いたい」の意に近くなる。英語 have to が wish の意に転化するのと似た現象であろう。
- 5) 「許されなかった」に対して, ji-yo は可である。

文 献

- Bauman, James J.
1975 *Pronouns and Pronominal Morphology in Tibeto-Burman*. Ph.D. dissertation at University of California, Berkeley.
- Burling, Robbins
1961 *A Garo Grammar*. Poona: Deccan College.
- Chang Kun and Betty S. Chang.
1975 Gyarong Historical Phonology. *BIHP* 46-3: 391-524.
- Delancey, Scott.
1981 An Interpretation of Split Ergativity and Related Patterns. *Language* 57(3): 626-657.
- Kin P'eng (金鵬).
1949 Étude sur le Jyarung. *Han Huiue* 3: 211-310.
- Kin P'eng (金鵬) et al.
1957/58 「嘉戎語校磨話的語音和形態」『語音研究』2: 123-151, 3: 71-108.
- LaPolla, Randy
1992 On the Dating and Nature of Verb Agreement in Tibeto-Burman. *BSOAS* 55(2): 298-315.
- 林 向榮
1993 『嘉戎語研究』成都：四川民族出版社。
- Nagano, Yasuhiko
1984 *A Historical Study of the rGyarong Verb System*. Tokyo: Seishido.
2003a *Cogtse Gyarong. The Sino-Tibetan Languages*. London: Routledge. pp. 469-489.

- 2003b Preliminary Remarks on Gyarong Negation Particles. *Language Variation*. Canberra: Pacific Linguistics. pp. 159–172.
- 長野泰彦
2004 「ギャロン語の否定辞」『平成 12–15 年度科学研究費補助金基盤研究 B 中国・東南アジア大陸部の国境地域における諸民族文化の動態に関する人類学的調査研究 報告書』 pp. 257–267。
- 瞿 霽堂
1984 「嘉戎語概況」『民族語文』 2: 67–80。
- van Driem, George
1993 The Proto-Tibeto-Burman Verbal Agreement System. *BSOAS* 56(2): 292–334.
- Wolfenden, Stuart N.
1929 *Outlines of Tibeto-Burman Linguistic Morphology*. London: Royal Asiatic Society.
1936 Notes on the Jyarong Dialect of Eastern Tibet. *T'oung Pao* 32: 167–204.